

神奈川県逗子市
「平成 26 年度 使用済製品リユースモデル事業」実施計画書

申請者名	逗子市
担当部署	環境都市部資源循環課

1. 実施するリユースモデル事業の概略

(1) プランの名称

地域密着型リユース・ライフスタイルの普及促進事業

(2) プランの概要

1. 市内各所へのエコ広場サテライトの設置
2. リユースパンフレットの作成配布・パネルの作成・シンポジウムの開催などにより、市民全体へリユース・ライフスタイルを普及啓発
3. 市民や市民団体へ、リユース情報交換の場を Facebook で提供

(3) プランに参加・協力の団体・企業など

逗子ゼロ・ウェイストの会、体験学習施設「スマイル」、西友逗子ハイランド店、ナカノ株式会社、市内リユース事業者、社会福祉法人湘南の凧、NPO 法人逗子まちなかアカデミー

(4) リユースの対象品目

食器・台所用品・日用雑貨・文房具・本・衣類・おもちゃ等子ども用品・小型家電など

(5) プランの対象地域

逗子市全域

(6) モデル事業の実施概要図

1. 市内各所へ、エコ広場サテライトを設置する

市内三カ所程度(地域活動センター 体験学習施設「スマイル」 西友逗子ハイランド店)において、エコ広場をサテライト会場としてイベント的に開催(各箇所二日間づつ)

イベントの開催に向けては、チラシを作成し事前に地域住民への周知を図り参加を呼び掛ける。

当日の会場では、不用品の持ち込みと持ち帰りを無料で実施する。

イベントの効果把握として、持ち込み品、持ち帰り品の計量と来場者のアンケートを実施する。持ち込みについては、地域通貨(Zen)への交換可能なポイント制を実施する。

また、今後の常設型への転換を図っていくため、上記会場に不用品交換スペースを設置し、イベント時以外にも持ち込み、持ち帰りが行える可能性を探り、利用状況や課題を明確化する。(常設型スペースでの取扱品は、食器類・日用雑貨・本・おもちゃ・子供服などを予定)

当日会場で引き取り手が見つからなかったものは、常設している市役所のエコ広場へ搬入し、活用する。その後、利用されなかった衣類については、連携するリユース事業者(ナカノ株式会社を予定)に引き渡す。また中型以上の日用雑貨や家具類の持ち込み依頼があった場合は、市内のリユース事業者との連携を探る。

2. 市民全体へ、リユース・ライフスタイルを普及啓発する

リユースパンフレットを作成

現在、市内には市役所におけるリユースの取り組みのほか、民間リユース事業者、市民によるバザーやフリーマーケット等がある。新たに取り組むエコ広場サテライトに関する情報と併せて、これらの市内にあるリユース施設・取り組みの一覧マップ及び、リユース事業者・市民団体等と連携し、リユースに関する啓発パンフレットを28,000部作成し、市内全戸約26,000戸に配布する。併せて市内の商店、リユースショップ及び公共施設などに配架する。

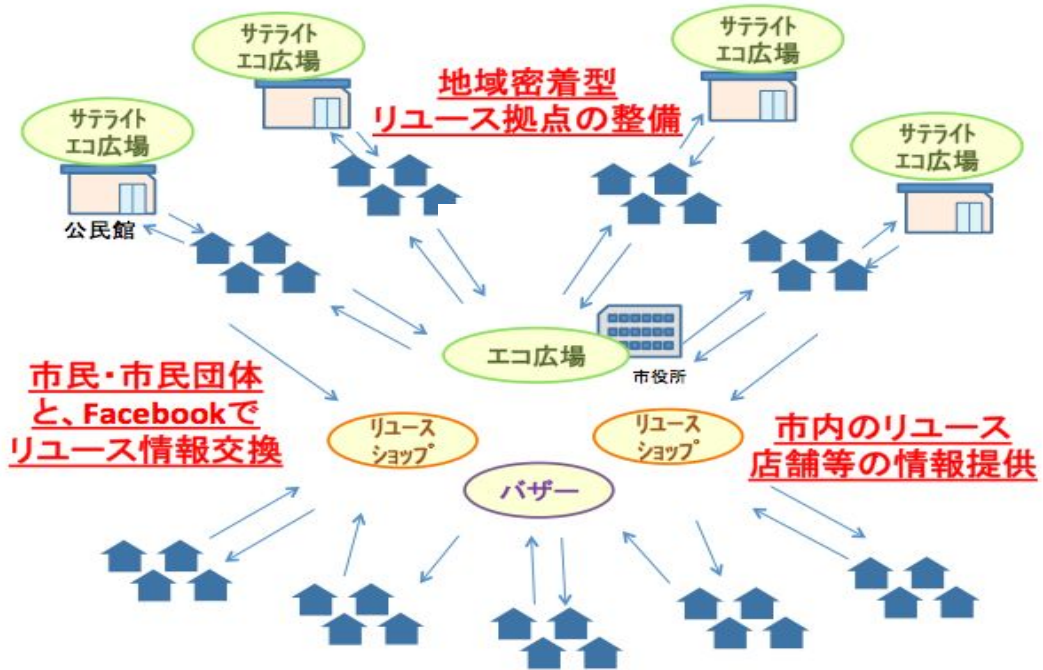
リユースに関するパネルを制作し、エコ広場・各サテライト会場にて展示し、リユースに関する情報をわかりやすく提供する。

エコ広場サテライト開催と時期を同じくして、若者へもリユースを促す講師を選定、市長やリユース業者・エコ広場運営スタッフなどとのシンポジウムを開催(1月中旬・逗子交流プラザさざなみホールを予定)し、市民全体のリユースに関する関心・参加の底上げを図る。

3. 市民や市民団体と、リユース情報をタイムリーに交換する

リユース品を提供する仕組みは、エコ広場や掲示板ですでに活用されているが、市民や市民団体側のニーズを引き出し、共有する仕組みとして、Facebookの相互発信機能を活用し、エコ広場へ持ち込まれる物品について、タイムリーな情報交換を行なう。それぞれのニーズに応えられる場を提供することで、リユース情報を共有する。

<実施概要図>



<逗子市地図>



1. エコ広場サテライトの設置・リユース業者の連携

各所でイベント開催、事前に地域住民へ周知、参加呼びかけ
 持ち込み・持ち帰り無料、計量とアンケートの実施
 持ち込みは地域通貨（Zen）と交換可能なポイント制
 不用品交換スペースを設置し、常設化へ転換を図る

2. 市民へのリユース啓発

リユースパンフレットの作成・全戸配布、パネル設置、シンポジウム開催

3. 市民や市民団体とのタイムリーなリユース情報の交換

2. 想定される効果・課題、その評価方法

(1) 想定される効果

・本事業により、市民全体のリユース意識の向上と、市民のエコ広場へのアクセスが改善されることで、市民のリユースへの参加率が高まり、ごみの減量、最終処分場の延命につながる。

・リユースを通じたモノの流れが、世代間の交流や文化の交流に繋がることにより、地域が活性化する。エコ広場やサテライト会場が、その拠点として機能することができれば、市民やボランティアの人たちにとって良い刺激となり、市民参加の動機付けやリユース意識の向上につながる。

(2) 想定される課題

・市民への効果的な周知・啓発方法

・エコ広場のサテライト会場におけるイベント時以外の運営（物が溢れてしまう、きれいに使用されないなどリユースを阻害する状態になってしまう、整理のための人員が必要となりコストが発生してしまう 等）

(3) モデル事業の効果・課題を評価するための具体的な方法

1. 市内各地区へのエコ広場サテライトの設置
イベント時には、会場にて来場者数、持ち込み・持ち帰り品の人数と重量の計測及び来場者アンケートを実施する。
また、イベント以外の利用状況の把握には、不用品交換スペースに記録用紙と計量器を設置し、利用者に持ち込み・持ち帰り品の重量を計測してもらうことで利用状況を把握する。

2. 市内リユースパンフレットの作成による市民全体へのリユースの啓発
リユースパンフレットへ利用券を挿入し来場時に提示してもらうことで、ポイントを付与し動機付けを行うとともに、その数をカウントする。来場者向けのアンケートを実施する。
エコ広場やリユースショップの来店者に対し、ヒアリングを随時おこなう。

3. シンポジウムの開催時に市民アンケートを実施する。

4. エコ広場に参加したボランティアを対象としたアンケートを実施する。

3. リユースに関する現在の取組み状況

本市では、1976（昭和51）年に、市役所一階に不用品交換掲示板を設置し、市民の不用品の情報交換を支援している。（年間利用者数は約600人（延べ人数）、約250件の不用品がリユースされている。）

2009（平成21）年6月から、市民ボランティアによる毎月月末の二日間、市役所正面入り口横スペースにてリサイクル広場を開催してきました。

2012（平成24）年10月からは、市の市民協働事業として市役所一階市民ホールに、市民のための不用品交換スペース「エコ広場」を常設し、市民団体「逗子ゼロ・ウェイストの会」が中心となって市民が気軽にリユースを行なえる環境づくりに力を入れているところである。

2013（平成25）年度は、エコ広場の年間利用者数約47,000人（延べ人数）、一日平均約170人（延べ人数）、年間約23トンの不用品が市民により持ち帰りでリユースされている。その他リユース業者への衣類引き渡しは年間約2トンである。また、廃棄物減量化に向けて、市民の意識と参加協力を高めるため、エコ広場への不用品持ち込みに対しては、逗子の地域通貨（Zen）に交換できるポイント制を実施（2013年度Zenの配布は971枚）している。

これらの取り組みにより、リユースの取り組みが進展しているところであるが、上記取り組みは、いずれも市内の中心部を拠点としていることから、市民からは「行く機会がない」、「市役所までの距離が遠い」などの意見があり、今後さらにリユースを市民の生活に定着させていくためには、より身近な場所でのエコ広場の開催が課題となっている。

これらの課題に対応するべく、2013（平成 25）年 10 月に沼間地区と小坪地区の二か所の公民館において実験的にエコ広場を開催したところ、地域住民からは大変好評であったため、毎月二日間の開催を実現した。

今後、このような地域を拠点とするエコ広場のサテライトを拡大していきたいと考えている。ただし、イベント型は運営に人件費等のコストが発生することから、地域住民の理解により無人でも適切に運営される常設型への転換を図り、持続可能な形で市民生活に定着させていくことが課題となっている。

4. 実施スケジュール

11月

・リユースパンフレット（A3 二つ折り）及びサテライト用、シンポジウム用（A4）作成開始、サテライト・シンポジウム準備会合開始

12月

・エコ広場サテライトの開催（体験学習施設スマイルにて2日間予定）、アンケート実施

・リユースパンフレットを広報ずし1月号と同時配布

1月

・リユースパンフレットを市内の商店、リユースショップ及び公共施設などに配架

・中旬過ぎの週末（予定）エコ広場まつりと連携してシンポジウムを開催し、同時にリユースショップ紹介コーナーを設ける

・エコ広場サテライトの開催（西友逗子ハイランド店にて2日間予定）、アンケート実施

2月

・エコ広場サテライトの開催（地域活動センターにて2日間予定）、アンケート実施

・リユースパンフレット配布の効果をリユースショップにヒアリング

・アンケート集計の集計及び評価・検証、報告書作成

5. 実施時に必要なる支出内容と金額

【返子リユースパンフレット】305,000円 (内訳)印刷費(版下作成費含む)200,000円(A3/カラー/二つ折り/28,000部)、 配布費用105,000円
【パネル】160,000円 (内訳)タペストリーB0計6枚(2種/各3枚・版下印刷費含む)
【シンポジウム用チラシ】170,000円 (内訳)印刷費(版下作成費含む)90,000円(A4/カラー/28,000部)、 配布費用80,000円
【シンポジウム】220,000円 (内訳)講師代200,000円、横断幕10,000円、会場費10,000円(土日午前、さざなみ ホール・ギャラリー)
【拠点毎のチラシ】60,000円 (内訳)印刷作成費A4/カラー/各1,000枚×3種
【ノボリ】60,000円 (内訳)制作印刷費12枚
【広場・サテライト会場での計量記録用紙・アンケート用紙】15,000円
合計990,000円

(以上)